

町が狩勝高原園地の再整備を目的として平成24年度から行っている試験的取り組み「狩勝高原園地活性化プロジェクト」が最終年度を迎え、町民の方々にもっと狩勝高原園地に興味・関心を持って関わってもらい愛着を持ってもらうこと8月16～17日に「5インチミニ鉄道運転会」、8月23日に「庭園鉄道小物制作講習会」を開催しました。



町内愛好家による5インチ鉄道運転会

今年度の試験的取り組み終了 狩勝高原園地活性化プロジェクト

営む坂本敬洋氏を講師に招き、ミニチュアの家や橋の制作を行いました。帯広市から参加した中川晃一さんは「難しかったけど楽しかったです」と話していました。



今年度行われた狩勝高原園地での試験的取り組みは8月末で終了し、今後、分析・検証し狩勝園地再整備の方向性を11月頃までに示す予定となっています。



完成したミニチュアの家を庭園鉄道に配置。家の中には照明もついている。

姉妹町との交流事業 少年少女使節団がお互いの町を訪問



五ヶ瀬町での夕食時の一コマ
後列左の5人が新得の児童生徒

地元の方々も昔あそびでふれあうなど、多くの学習・体験をさせていただきました。
五ヶ瀬町について、子どもたちは「方言の違い」が一番の驚きだったようです。



友夢牧場で子牛にミルクをあげる
五ヶ瀬町の使節団員

本町と姉妹町である宮崎県五ヶ瀬町の交流事業として、隔年で派遣している「少年少女使節団」が、お互いの町を訪れました。平成元年から始まったこの事業は、今回で14回目を数えます。
新得の使節団は、7月31日に五ヶ瀬町を訪問。屈足中学校の林正浩教頭を団長に、中学生3人、小学生12人、引率3人の計18人が2泊3日の日程で交流を深めてきました。

五ヶ瀬町の使節団は、中学生5人、小学生10人、引率4人の計19人が8月20日に来町。2泊3日の日程で、ヘアワウンテンを見学したり、わかふじ寮で手話を学んだほか、初めてのパークゴルフや友夢牧場で搾乳を体験するなどしました。
新得については「道路がまっすぐ」ということが五ヶ瀬の子もたちには驚きだったようです。

野球少年団が10年ぶりの道東進出



「優勝目指す！」

8月9日から10日にかけて行われた全道新人大会で堂々の3位となり、同30日から31日に開催の「西釧路旗争奪野球新人戦大会（中標津町）」の出場権を勝ち取った新得町野球少年団（谷口颯太キャプテン）のメンバー19人が、8月28日、浜田町長のもとを訪れて、大会での健闘を誓いました。
同少年団は、新得と屈足の合同

新得へ「いらっしゃい」 屈足南小児童が札幌でPR



屈足南小学校（若狭重人校長）の6年生11人が「1日観光大使」として、9月4日、修学旅行先の札幌で新得町のPRをしました。

児童は、8月29日に浜田町長と町観光協会の若原敏勝会長から同大使に任命され、この間、総合的な学習の一環として町内の観光地取材し、パンフレットを自分たちで制作したほか、「新得レジンジャー」の着ぐるみを持って、PR映像の制作も行っていました。

札幌では、地下歩行空間にて通行人にパンフレットとそば約100セットを配付。途中からは浜田町長も駆けつけ、一緒にPRをしていました。
元気な児童の姿と流されたPR映像、パンフなどにより、多くの人に新得を知ってもらったことが嬉しかったです。

人事異動

(8月22日付)

退職者

- 町長部局
▼金徳光浩（施設課土木係）

チーム。昨年からの合同体制となり、練習を重ねてきました。
今大会には1年から5年の16人が出場。十勝の大会を勝ち上がるのはおよそ10年ぶり。谷口キャプテンは「優勝できるように頑張ってください」と力強くあいさつ。
浜田町長は「仲間と一緒にプレーできることに感謝して、あとは体調を整えて、気を抜かず頑張ってください」とエールを送っていました。

試合は道東地区から12チームが出場し、トーナメント形式で行われました。

結果は、1試合目に根室のチームと対戦し、後半まで接戦を繰り広げましたが、5対1で残念ながら敗れてしまいました。

「レベルの差はそれほどなかった」(少年団関係者)ということなので、これからさらに練習を重ね、次回こそ優勝を期待しています！

「募集停止」「特別支援学校設置」正式に決定 新得高校

広報しんとく8月号の特集でお伝えした、新得高校の「普通科募集停止」と「特別支援学校設置」について、9月2日、道教委から正式な発表がありました。

内容については8月号に掲載されているとおり。普通高校の廃止については、長く定員割れが続く、今後増加が見込めないことなどがあげられています。
また、特別支援学校の設置については、「平成27年度公立特別支援学校配置計画」の中で、「28年度の見直し」として、「新得高校の空き教室に2学級（定員16人）の確保を検討」と、新得高校の名前が挙げられました。
両校の併設をこの間努力してきましたが、普通高校存続は叶わず、残念でならないようです。
この結果を踏まえ、高校のあり方について、今後関係者と検討をしていきます。

また、特別支援学校については、地元としての支援体制の構築を進めていくこととしています。
具体的な内容などについては、広報紙などを通じて今後随時お知らせしていきます。